2024年度成人科テキスト

# 月刊「ぶどうの木」

# ５月号

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。
（マタイ11：28）

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

# 目次

証し「成人科の恵み」 ・・・1
宝田千枝姉

解説・コリントの信徒への手紙② ・・・3

5/5　第５課　一緒に主の食卓へ ・・・5
ショートメッセージ：田中由記子姉　聖書日課：工藤征治兄

5/12 第６課　ひとつの霊、多くの働き ・・・9
ショートメッセージ：郷健人兄　聖書日課：宇佐美典子姉

5/19 第７課　最も大きな賜物 ・・・１３
ショートメッセージ：栗山義亜兄　聖書日課：渡部和子姉

5/26 第８課　初穂となられたキリスト ・・・１７
ショートメッセージ：郷健人兄　聖書日課：小沢敬一兄

表紙イラスト：友納聖子姉

# おしらせ

- 成人科は毎週日曜日　10：15～50　地下フェロシップホールにて行っています。ぜひご出席ください。

- ショートメッセージの動画は、教会ホームページからも視聴できます。
上部メニューから「教会学校」をクリック→「成人科」をクリック

- ショートメッセージと聖書日課を、メールで受け取ることができます。　ご希望の方は成人科奉仕者（ショートメッセージ、聖書日課の執筆者）に　お声がけください。

- 「ぶどうの木」のボックスへの配布をご希望される方も、奉仕者までお知らせください。

# 証し「成人科の恵み」

宝田千枝姉

**あなたがたを襲った試錬で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共にそれに耐えられるよう、逃れる道も備えていてくださいます。**

**コリントの信徒への手紙一　１０章１３節**

私が初めてキリスト教に触れたのは、中学1年の時、近所の友達に誘われて行った教会でした。庭先のアトリエをお借りしてのささやかな教会でしたが、讃美歌や聖書のお話が素敵で、楽しく通っていました。

大学はミッション系で入学式から礼拝形式で、毎日礼拝がありました。ところが学生運動の嵐の中に入ってしまいました。無茶な主張をして荒れている学生、何もできないクリスチャンの先生方にも失望してしまい、教会からも離れてしまいました。

再びキリスト教に接したのは板橋区に引っ越しして、常盤台教会員のお宅での家庭集会に誘われたことでした。そして娘はキリスト教の学校に入れたいと願い、希望通りにミッションスクールに入った娘はハンドベルをやり、高校卒業前にバプテスマを受けました。私がバプテスマにあずかったのはさらに後で、息子のことで悩んだ挙句でした。

ハンドベルに加えていただき、礼拝にも元気に出席していました。成人科がスタートして仲間に入れていただきました。少人数でしたが、学ぶことの多い時間でした。

そのうちコロナ禍になり、教会に行くことは困難になりました。礼拝がユーチューブになり、成人科もズームで行われるようになりました。参加人数が少なくてドキドキでした。ただ毎週メールで送ってくださるテキストの内容が素晴らしく、リーダーの方々のご奉仕に感動して、もったいないと思い、友達をお誘いしていました。

しばらくして対面でできるようになったのに、今度は私が、胆嚢炎で入院、手術、その後、腰の圧迫骨折で動けなくなっていたころ、皆様の優しさでショートメッセージなどをオンラインで送ってくださいました。再び教会に集うことができるようになり、勉強不足の私は成人科の皆様のお話を聞いて、刺激を受けています。そして神さまの大いなるお働きに感謝をしています。

テキストのタイトルが「ぶどうの木」となり嬉しく思っています。イエスさまに繋がり、皆様と共に学びを続けていきたいと願っています。

# 解説・コリントの信徒への手紙②

【アカイア州の首都・コリント】

パウロが第2回伝道旅行でアテネに次いで初めて訪問したコリントは当時、アカイア州の首都(アテネを含む)でギリシアの南北交通、地中海の東西交通の重要な商業港湾都市でした。人口は自由市民30万人、奴隷46万人を抱えユダヤ人も多く住み、ギリシア人、元ローマ兵、商人、船乗り等の異種・雑多な人たちにより経済的には豊かでしたが不道徳がはびこり、都市としての伝統もなく、しっかりした市民もいない罪の多いローマの植民地でした。

【コリントでのパウロ・紀元50～51年頃】

**使徒言行録18:9～10**

**ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」**

パウロはこのような町にこそ救いを求める主の民が大勢いると励まされ、１年６カ月の間、コリントに留まり神の言葉を伝えました。パウロの宣教の中心はキリストの十字架と復活でした。

**第一コリント2:2**

**わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。**

**第一コリント15:17**

**キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。**

パウロは単身でコリントに入り、同じ天幕作りのアキラとプリスキラの夫婦に出会い、彼らの助けを受けて当初はユダヤ人の会堂で、次に異邦人の求道者を中心に伝道をしました。

シラスとテモテがマケドニア州からやってくるとパウロはキリストの十字架と復活の福音を語ることに専念し、アテネでの宣教とは打って変わってシンプルに力強く説き明かしてコリントでの教会の基礎を据えたのです

【手紙が書かれた動機・目的】

(コリントの信徒への手紙一)

第２回伝道旅行の果実としてキリストの教会が据えられましたが、コリントの教会の群れに教会員の分裂、不道徳、法律問題、結婚、主の晩餐式の不適切な実践など教会にみられた無秩序な有り様を伝え聞いた事やコリント教会からの質問に応えるために紀元55頃にエフェソから書き送られたものです。

(コリントの信徒への手紙二)

第一の手紙ではコリント教会の問題が解決にならず、むしろパウロの使徒としての権威に反発する人たちで教会は揺れていました。そこでパウロはコリントに行き厳しく問題の対処をしましたが、かえってコリントの教会の人たちを悲しませることとなり。「涙ながらに手紙を書きました。」（第二コリント2:4）とあるように一通の手紙を書きました。これが第二コリント10章から13章とも言われています。テモテに持たせた手紙を心配していたパウロですが、コリントの人たちが悔い改めたとの報告を受けて喜びに満たされて書いた手紙が第二の手紙です。このなかでエルサレム教会に宛てた献金運動の励ましもしています。

【福音の広がり】

紀元35年頃　ユダヤ・サマリヤ・ガリラヤ
紀元40年頃　シリア　アンティオキア

↓

紀元48年頃　小アジア　エフェソ・コロサイ

↓

紀元52年頃　ギリシャ　アテネ・コリント

↓

紀元60-61年 ローマへの航海

【パウロの歩み】

パウロの回心 (紀元35年)
シリア・キリキアでの宣教
アンティオキアに到着　(紀元43年)
エルサレム訪問 (紀元44年)
●第1回伝道旅行　(紀元45～48年頃)
エルサレム会議 (紀元49年)
●第2回伝道旅行　(紀元50～53年頃)
パウロとシラス(同労者)、テモテ(助手)
●第3回伝道旅行　(紀元54～57年頃)
コリント信徒への手紙一　エフェソにて紀元55年頃
コリントへは少なくとももう一通の手紙を書いた
コリント信徒への手紙二　フィリピにて紀元57年頃

約２年間自費で借りた家に住む
ローマにて殉教　(紀元65年頃)

参考図書
「新聖書購解シリーズ　コリント人への手紙」　1997年　いのちのことば社
「聖書注解シリーズ　コリント」　W・バークレー　1970年　ヨルダン社
「バイブルワールド」　ニック・ペイジ　2016年　いのちのことば社
「バイブルガイド」　マイク・ボーマント　2015年　いのちのことば社

（文責・郷秀男）

# 第５課　一緒に主の食卓へ

聖書箇所：コリントの信徒への手紙一　１１章１７－２６節（参照２７－３４節）
主題聖句：それでは、一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにならないのです。
（２０節）

17次のことを指示するにあたって、わたしはあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが、良い結果よりは、むしろ悪い結果を招いているからです。 18まず第一に、あなたがたが教会で集まる際、お互いの間に仲間割れがあると聞いています。わたしもある程度そういうことがあろうかと思います。 19あなたがたの間で、だれが適格者かはっきりするためには、仲間争いも避けられないかもしれません。 20それでは、一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにならないのです。 21なぜなら、食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいるという始末だからです。 22あなたがたには、飲んだり食べたりする家がないのですか。それとも、神の教会を見くびり、貧しい人々に恥をかかせようというのですか。わたしはあなたがたに何と言ったらよいのだろう。ほめることにしようか。この点については、ほめるわけにはいきません。
23わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、 24感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。 25また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。
26だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

コリントの信徒への手紙一の11章から14章にかけて書かれているのは、コリント教会の礼拝における課題についてです。今日の聖書箇所では、コリントの教会にとって大きな課題であった「主の晩餐」について語られています。

現代に生きる私たちは、「主の晩餐」と「愛餐」をはっきり区別しています。
「主の晩餐」は儀式の一つとして行われています。長い年月をかけて整えられてきたものなので、やり方や語る言葉など、そのスタイルは確立されています。常盤台教会では、信仰告白をして、バプテスマを受けた方があずかる儀式で、月に1回、行われています。
それに対して「愛餐」は、クリスチャン、ノンクリスチャンに関わらず、皆で食事をし、交わりを持つことを言います。

しかし、この時代のコリントでは、「主の晩餐」と「愛餐」の区別ははっきりしていなかったようです。教会ができたばかりで、しかも、大きな会堂を持たずに、小さな集会所や家庭に集まって行っていたので、統一されたやり方、確立したスタイルというものはありませんでした。皆で集まって、礼拝をし、食事をし、その中でパンと葡萄酒を分かち合うことをしていたようです。

その食事の仕方に問題があるとパウロは指摘しています。裕福な者は先に食事をして満腹になり、貧しい者たちは食べることができず、空腹のままであったのです。自分さえ満腹になればよい、他の人のことなど全く気にかけない…そのような食事は主の晩餐とは言えません。ただ空腹を満たすための食事であれば、自分の家で食べればよいのです。

コリント教会の人たちは、自分勝手に食事をしていただけでなく、主の晩餐の意味、主の十字架の意味をも忘れて、パンや葡萄酒を口にしていました。

イエスさまは十字架にかけられる前夜、弟子たちと最後の食事を共にしました。イエスさまは、パンを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である」と言って弟子たちに渡しました。また、「この杯は、わたしの血によってたてられる新しい契約である」と言って、杯を渡しました。
その時の弟子たちには理解できませんでしたが、主の晩餐には次のような意味があったのです。
イエスさまが流される血によって、自分たちの罪が贖われるのだということ。そして、自分たちの罪のために十字架にかかってくださるイエスさまの体を受けて、これからはイエスさまに代わって、神さまの愛を伝えていくという重大な働きを託されたのだということ。

だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。（26節）

イエスさまの十字架を思うと、胸が痛みます。つらいことは忘れてしまいたいと思うのが人間ですが、イエスさまの十字架を忘れることのないよう、主の晩餐のたびに、そのことを告げ知らせるようにとパウロは言っています。
主の晩餐の意味を忘れ、ただ、自分の欲求を満たすために主の晩餐をすることのないようにと、パウロは忠告しています。自分自身が主の晩餐にあずかるのにふさわしいかを確かめるだけでなく、食事をもらえていない人、誰からも相手にされず、取り残されている人がいないか、周りをよく見るようにと書いています。

教会に来て、礼拝し、祈り合い、分かち合い、交わりを持つことは喜びです。しかし、自分が祝福を受けて、喜んで、満足して終わることのないように、教会に来ることができない方、教会に来ても交わりに加わることができない方がいらっしゃらないかを確かめること、そのような方々のために祈ることを忘れないようにしたいものです。一人でも多くの方が、主の食卓に招かれ、イエス・キリストを主と信じて、主の晩餐にあずかることができるよう祈り、自分に何ができるか考えてまいりましょう。

**～分かち合い～**

- **クリスチャンになる前は、主の晩餐に対して、どのような印象を持っていましたか？クリスチャンになってからは、主の晩餐を受けるとき、どのようなことを考えていますか？**
- **一人でも多くの方がイエス・キリストを主と信じて、主の晩餐にあずかるために、私たちに何ができるでしょうか？**

## 今週の聖書日課

### ５月６日（月）コリントの信徒への手紙一　１１章２７節

従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。

「他者と共に生きる」は、私の好きな言葉です。民族・宗教が違っても、平和共存出来るはずです。

### ５月７日（火）マルコによる福音書　２章１３－１７節

13イエスは、再び湖のほとりに出て行かれた。群衆が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。 14そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。 15イエスがレビの家で食事の席に着いておられたときのことである。多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。 16ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。 17イエスはこれを聞いて言われた。「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

アメリカで感心した事。法律を犯した人、又社会問題を起こした人がキチンと罪を償った後、社会はその人を差別せず、「一緒に食事をします」。野球のベーブルースや映画俳優のスティーブ・マックイーンは少年院出所者ですが、アメリカ社会は彼等の才能を評価しました。人生の再挑戦を出来る社会です。

### ５月８日（水）詩編１２２編１－９節

1【都に上る歌。ダビデの詩。】
主の家に行こう、と人々が言ったとき
わたしはうれしかった。
2エルサレムよ、あなたの城門の中に
わたしたちの足は立っている。
3エルサレム、都として建てられた町。
そこに、すべては結び合い
4そこに、すべての部族、主の部族は上って来る。
主の御名に感謝をささげるのはイスラエルの定め。
5そこにこそ、裁きの王座が
ダビデの家の王座が据えられている。
6エルサレムの平和を求めよう。
「あなたを愛する人々に平安があるように。
7あなたの城壁のうちに平和があるように。
あなたの城郭のうちに平安があるように。」
8わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。
「あなたのうちに平和があるように。」
9わたしは願おう
わたしたちの神、主の家のために。
「あなたに幸いがあるように。」

キリスト教の聖書から真理を学べば、人々の違いを乗り越えて、人々を一致させる絆となります。

## ５月９日（木）ネヘミヤ記　８章９－１２節

9総督ネヘミヤと、祭司であり書記官であるエズラは、律法の説明に当たったレビ人と共に、民全員に言った。「今日は、あなたたちの神、主にささげられた聖なる日だ。嘆いたり、泣いたりしてはならない。」民は皆、律法の言葉を聞いて泣いていた。 10彼らは更に言った。「行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」 11レビ人も民全員を静かにさせた。「静かにしなさい。今日は聖なる日だ。悲しんではならない。」
12民は皆、帰って、食べたり飲んだりし、備えのない者と分かち合い、大いに喜び祝った。教えられたことを理解したからである。

ネヘミヤ達によって再建された神殿。目に見えない神を畏れ敬うと同時に、目に見える神殿はユダヤ人達を団結させる効果がありました。

## ５月１０日（金）マルコによる福音書　３章３１－３５節

31イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。 32大勢の人が、イエスの周りに座っていた。「御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます」と知らされると、 33イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、 34周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。 35神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

我々クリスチャンは教会で礼拝する事と、夫々が意見を述べた後、連帯感を確認し、神とイエスさまを中心に、一つの家族として助け合う事が出来ます。

## ５月１１日（土）マタイによる福音書　１６章１３－３１節

28また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。 29それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。 30神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。 31「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

イエスさまの十字架から2000年位が経過して、今もイエスさまは私達を見守ってくれています。

# 第６課　ひとつの霊、多くの働き

聖書箇所：コリントの信徒への手紙一　１２章１－１１節

主題聖句：賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。

（４節）

1兄弟たち、霊的な賜物については、次のことはぜひ知っておいてほしい。 2あなたがたがまだ
異教徒だったころ、誘われるままに、ものの言えない偶像のもとに連れて行かれたことを覚えて
いるでしょう。 3ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも「イエ
スは神から見捨てられよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主で
ある」とは言えないのです。
4賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。 5務めにはいろいろあり
ますが、それをお与えになるのは同じ主です。 6働きにはいろいろありますが、すべての場合に
すべてのことをなさるのは同じ神です。 7一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益とな
るためです。 8ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言
葉が与えられ、 9ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によっ
て病気をいやす力、　10ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分
ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。
11これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人
一人に分け与えてくださるのです。

本日の箇所の冒頭を読んで、数年前に日光東照宮へ行った時のことを思い出しました。東照宮と言えば、徳川家康を神格化した場所です。敷地内では手を合わせて祈る人を何人も見かけましたが、「いま自分は家康に向けて祈っている」と考えている人はどれくらいいるのだろうか、そして家康を神とするなら他の神社や、ましてお寺では手を合わせないのだろうか、等と考えずにはいられませんでした。神道や仏教への知識がないのでこの疑問自体が的外れなのかもしれませんが、クリスチャンの信仰とは、祈りとは、を考える良い機会でした。

パウロは「ものの言えない偶像」という言葉をもって、コリント教会の人々が異教徒であった時代を表現しています。偶像は自ら語ることが無く、問いかけに応じることもありません。ある意味で、祈る対象としては安心感があります。思うがままに祈りを託すことに、恐れを感じなくてよいからです。

一方で私たちが信じる神さま・イエスさまは、大いに言葉を語られます。聖書に記されたみ言葉だけに留まらず、今この瞬間もあらゆる形で語りかけて下さっている、という信仰に私たちは立ちます。ですから祈りは一方的な語りかけではなく、神さまとの対話となります。時に、祈りについて「こんなことまで祈ってよいのだろうか…」「この言葉選びは正しいだろうか…」と悩むこともありますが、それもまた「ものの言えない偶像」ではなく「もの言う神」、「対話してくださる神」を信じるがゆえです。

こうした違いが、私が東照宮で感じた違和感を生んだのかもしれません。

さて、偶像を拝む者であった人々が、神の御言葉を聞きとれる耳、そして神に祈る言葉を紡ぐ口をどのようにして手に入れたのでしょうか。パウロはそれこそが聖霊の働きだと語ります。この当時、ユダヤ人の会堂においては異端者・背教者に対する「呪い」が公然と祈られており、イエスさまもこの対象となっていました。「イエスは神から見捨てられよ」（口語訳では「イエスはのろわれよ」）という言葉は比喩でもなんでもなく、実際に言われていたものなのです。この呪いを口にできるかどうかで人を試し、言えない者は迫害の対象となったり、酷い場合は命を奪われたりといったことも起きていたようですが、それでも聖霊の力を受けた者はそのような呪いは口にしない、とパウロは力強く証ししているのです。また、3節の後半に書かれた「イエスは主である」の「主」とは、時の皇帝すら超えた存在としてイエスさまを認める、という意味があります。そうした言葉や思いを与えてくださる存在として、パウロは聖霊の働きを極めて力強く感じていたのです。

私たちが聖書を読んだり、讃美歌を歌ったり、共に御言葉の分かち合いをしたりする時にも、それがただの文章、ただの歌、ただの会話とは感じず、神さまを近くに感じるものとなるならば、そこには聖霊の助けが存在しています。パウロが活躍した時代とはまた違った形で、信仰を公に言い表すことが難しい社会に生きる私たちですが、聖霊の力を受ければ必ず、語るべき言葉を語れるようになる、と信じています。

4節以降、パウロは聖霊が一人ひとりに応じた賜物を与えてくださると語っています。そしてその聖霊は「同じ」であることを強調しています。聖霊はイエスさまが私たち一人ひとりに遣わしてくださった助け主ですが、日本人の感覚にも根付く「守護霊」のような、個々に違う存在が備わっているわけではありません。同じ神の元から来た、同じ聖霊が、それぞれに合った関わりをしてくださるのです。各々が違う賜物を与えられていたとしても、それらは同じ聖霊、同じ神から与えられたものなのです。先月学んだ通り、やれパウロ派だアポロ派だと人間目線の分裂や対立をしていた人々にとって、この教えは深く響いたことでしょう。

いま私たちの社会は「多様性」をキーワードとして、互いの違いを受け入れ合うことを大切にています。こういう生き方、こういう考え方が絶対的に正しいのだ、とする主張は敬遠され、各々の選択を重んじる風潮が日に日に強まっています。一方で教会においては、そのように違いを認め合うことはもちろん大切にしつつ、同時に一致して同じ神を礼拝するという使命があります。きっと初代教会から現在に至るまで、教会はこの「違っていてよいこと・一致すべきこと」の間で、時に悩み苦しみながら様々な選び取りをしてきたのだと思います。これからもその歴史は続いていくでしょうが、私たちが同じ聖霊によって1つとされていることへの感謝は、いつも忘れずにいたいと願います。

**～分かち合い～**

- **日々の歩みの中で、聖霊の働きを身近に感じることはありますか。**
- **教会生活のどのような場面で、一致（または違い）を感じますか。**

## 今週の聖書日課

### ５月１３日（月）出エジプト記　３章６節前半

神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。

「アブラハム・イサク・ヤコブの神」というのは契約の神の御名です。この御名はモーセの先祖たちと交わした契約に忠実なお方という意味が込められており、また永遠の命を保証するものでもあります。

### ５月１４日（火）ヨハネによる福音書　１５章４－５節

4わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。 5わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

枝は努力して木にしがみついているのではありません。「わたしもあなたがたにつながっている」と言ってくださるイエスさまの招きの中でつながっているのです。私たちはイエスさまにつながっていなければ愛の実を結ぶことも、どんなに神さまに愛されているかを知ることもできないのです。

### ５月１５日（水）コリントの信徒への手紙一　１２章１２－２７節

12体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。 13つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。 14体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。 15足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。 16耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。 17もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでにおいをかぎますか。 18そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。 19すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。 20だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。 21目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。 22それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。 23わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようとします。 24見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。 25それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。 26一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。
27あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

教会は「イエスは主です」と告白する者たちによって建てられます。そしてそこに集う一人ひとりはキリストの体の部分であり、それぞれが違う働きや形をしています。一人ひとりがなくてはならない役割を担っており尊い存在なのです。

## ５月１６日（木）申命記　７章６－８節

6あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の
中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。 7主が心引かれてあなたたちを選ばれたの
は、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民より
も貧弱であった。 8ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓い
を守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオ
が支配する奴隷の家から救い出されたのである。

荒野で何度背いても見捨てず愛し抜かれた神さまの一方的な愛による選びによって、私たちは救われました。私たちの弱さを重々承知の上で、主との愛の交わりに留まるように招いてくださいます。この主以外に神はいないのです。

## ５月１７日（金）ヨハネの手紙一　４章１６－１７節

16わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。
神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいま
す。 17こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことが
できます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。

老年になりヨハネはいつも同じ言葉を語ったそうです。それは主ご自身から受けた命令でほかのすべての命令を集約する最も重要なものでした。「子どもたちよ、互いに愛し合いなさい」弟子たちがなぜいつも同じメッセージをするのかと質問するとヨハネはこう答えたそうです。「なぜなら、それは主からの命令だからです。そしてこの一つの命令が実行されたならそれだけで十分だからです。」

## ５月１８日（土）エレミヤ書　３１章２７－３４節

27見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家に、人の種と動物の種を蒔く日が来る、と主は言
われる。 28かつて、彼らを抜き、壊し、破壊し、滅ぼし、災いをもたらそうと見張っていた
が、今、わたしは彼らを建て、また植えようと見張っている、と主は言われる。
29その日には、人々はもはや言わない。
「先祖が酸いぶどうを食べれば
子孫の歯が浮く」と。
30 人は自分の罪のゆえに死ぬ。だれでも酸いぶどうを食べれば、自分の歯が浮く。
31見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われ
る。 32この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したと
きに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破
った、と主は言われる。 33しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこ
れである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれ
を記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 34そのとき、人々は隣人どう
し、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい
者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心
を留めることはない。

イスラエルが神との契約を破ったことにより神の裁きが下ります。審判のメッセージですが34節には神の赦しと憐れみの預言が語られています。この新しい契約はやがてイエスキリストによって実現されます。

# 第７課　最も大きな賜物

聖書箇所：コリントの信徒への手紙位置１２章３１節ー１３章１２節

主題聖句：それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。
その中で最も大いなるものは、愛である。（１３：１３）

31あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。
そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます
1たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。 2たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。 3全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。
4愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。 5礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。 6不義を喜ばず、真実を喜ぶ。 7すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。
8愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、 9わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。 10完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。 11幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。 12わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。 13それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

私が初めてこの聖句に触れた時は、「山を動かす程の信仰」ということ自体、凄いものなので、（愛がなくても）「無に等しい」とまで言うのは言い過ぎなのでは。ただ信仰や希望を持つだけではなく、愛情を持って同じ（イエスさまへの）信仰や希望を持っている者と共に歩みなさい。といった意味なのかなと読んでいました。その後、聖句やメッセージを通して、この聖句で言っている「愛」はこの考え方の「自分からの愛」とは別の意味のものであることを気付かせてもらえました。

ある言葉を「イエスさま」に置き換えて読むと理解しやすいというのは「聖書あるある」のひとつだと思います。この場合も「愛」を「イエスさま」に置き換えると理解しやすくなります。13章4節から、【「イエスさま」は忍耐強い。「イエスさま」は情け深い。ねたまない。「イエスさま」は自慢せず、高ぶらない。 「イエスさま」は礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。 「イエスさま」は不義を喜ばず、真実を喜ぶ。】

7節からは「神さま」とした方がしっくりときます。
【「神さま」はすべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。「神さま」は決して滅びない。】となるように、この「愛」は「イエスさま」、「神さま」であることが理解できます。「イエスさま」と「神さま」を混同しましたが、ある聖書の解釈書に「イエスさまはこの世で神さまの愛を忠実に体現された方である」とありました。私もその通りだと思い、この「愛」に関しては同じものとして書きました。

また、いつまでも残ると記されている「信仰」と「希望」と「愛」は「イエスさまへの信仰」、「イエスさまがもたらして下さった希望」「イエスさまがこの世で現わして下さった神の愛」でなければ、いつまでも残ることはないのです。
「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3章16節）と神さまが約束されていますので、その「独り子を信じる信仰」でなければ無に等しい。神さまの言葉は必ず成就するので、この「希望」は失望に終わることはない。この神さまの大きな愛は皆が永遠の命を得て希望が成就した後も永遠に続く... ので、「その中で最も大いなるもの」であるのではないでしょうか。

「異言や予言を語ること」、「あらゆる神秘とあらゆる知識に通じること」、「山を動かすほどの完全な信仰」、「全財産を貧しい人々のために使い尽くす善行」、「わが身を死に引き渡す程の覚悟」、どれも凄いことであり、この世では立派といえる行いでもあるかと思いますが、それが「イエスさまの愛に対しての行いでなければ」何の意味もない...。むしろ、ほんの些細な小さなことでも、イエスさまの愛に応えての行動であり、神様のみ胸に叶うものであれば、私たちの信じるイエスさまは喜んで下さいます。信じて参りましょう！

**～分かち合い～**

- **「人の愛」と「神の愛」の違いについて分かち合ってみましょう。**

## 今週の聖書日課

### ５月２０日（月）ヨハネによる福音書　２１章１５－１７節

15食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。
16二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。 17三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。

イエスさまに「わたしを愛しているか？」と三度も同じことを聞かれたら(私の不信仰を責めている？)と怯んでしてしまいそうですが、ペトロは真心をお伝えしたくて「私があなたを愛していることは(主よ)あなたがご存知です。」と真っ直ぐに答えています。真剣さ、素直さを大切にすることを教えられました。

### ５月２１日（火）使徒言行録　２章３６－４２節

36だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」
37人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。 38すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。 39この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」 40ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。 41ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。 42彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に3千人ほどが仲間に加わった。」41節 このみ言葉には、何時も希望と励ましをいただいていました。厳しいと言われる日本でも、何時も世界中のどこかで起きているリバイバルが起こることを祈り願い、身近な事からさせていただきます。

### ５月２２日（水）ペトロの手紙二　１章３－８節

3主イエスは、御自分の持つ神の力によって、命と信心とにかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました。それは、わたしたちを御自身の栄光と力ある業とで召し出してくださった方を認識させることによるのです。 4この栄光と力ある業とによって、わたしたちは尊くすばらしい約束を与えられています。それは、あなたがたがこれらによって、情欲に染まったこの世の退廃を免れ、神の本性にあずからせていただくようになるためです。 5だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、 6知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、 7信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。 8これらのものが備わり、ますます豊かになるならば、あなたがたは怠惰で実を結ばない者とはならず、わたしたちの主イエス・キリストを知るようになるでしょう。

神の本性にあずかるため信仰には、徳・知識・自制・忍耐・信心・兄弟愛・愛を加えなさいと、気が遠くなりそうですが、神さまを認識するために「神の力によって命と信心にかかわるすべてのものを、私たちに与えてくださいました。」3節と、既にいただいていますので挑戦し続けて参りたいです。

## ５月２３日（木）詩編　２３編１－６節

1【賛歌。ダビデの詩。】
主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。
2主はわたしを青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴い
3魂を生き返らせてくださる。
主は御名にふさわしく
わたしを正しい道に導かれる。
4死の陰の谷を行くときも
わたしは災いを恐れない。
あなたがわたしと共にいてくださる。
あなたの鞭、あなたの杖
それがわたしを力づける。
5わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
わたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を溢れさせてくださる。
6命のある限り
恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰り
生涯、そこにとどまるであろう。

全てを満たし、日々命を新しくしてくださり正しい道に導いてくださる主、病の時は力づけてくださり、迫害の時も平安を与えて祝福してくださる主、その主がいつも私たちを愛して恵もうと追いかけてくださっている。主の家に帰り留まる幸いを感謝してお伝えしたいです。

## ５月２４日（金）エゼキエル書　３７章１－１４節

1主の手がわたしの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。 2主はわたしに、その周囲を行き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それらは甚だしく枯れていた。 3そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」 4そこで、主はわたしに言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。 5これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。 6わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉を付け、皮膚で覆い、霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。そして、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。」
7わたしは命じられたように預言した。わたしが預言していると、音がした。見よ、カタカタと音を立てて、骨と骨とが近づいた。 8わたしが見ていると、見よ、それらの骨の上に筋と肉が生じ、皮膚がその上をすっかり覆った。しかし、その中に霊はなかった。 9主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」
10わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。
11主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らは言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。 12それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。 13わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。 14また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる。わたしはお前たちを自分の土地に住まわせる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知るようになる」と主は言われる。

霊肉的共に疲れ枯れ果て、自分の限界を通り越し「もうダメ、終わりだ。」と思うことに出合っても、「霊よ、・・・。そうすれば彼らは生き返る。」9節と言われ真に肉を組み立てて、霊を吹き込み生かされた神さまに信頼してお委ねすれば大丈夫ですね。

## ５月２５日（土）ヨブ記　１９編２５－２７節

25わたしは知っている
わたしを贖う方は生きておられ
ついには塵の上に立たれるであろう。
26この皮膚が損なわれようとも
この身をもって
わたしは神を仰ぎ見るであろう。
27このわたしが仰ぎ見る
ほかならぬこの目で見る。
腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る。

最悪の状況の時でも、神さまがイスラエルを救い出して下さったように私を救い出して下さると言う確信、又現在や近い将来にはいろいろ問題はあるかもしれませんが、最後には救い主が立って下さると告白するヨブ、希望へと繋がる同じ信仰が私達にも与えられていることを感謝します。

# 第８課　初穂となられたキリスト

聖書箇所：コリントの信徒への手紙一　１５章１２－２２節
主題聖句：キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、
あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。（１７節）

12キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、
死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。 13死者の復活がなければ、キリ
ストも復活しなかったはずです。 14そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの
宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。 15更に、わたしたちは神の偽証人とさえ
見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリスト
を神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。 16死者が復活しない
のなら、キリストも復活しなかったはずです。 17そして、キリストが復活しなかったのなら、
あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。 18そうだ
とすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけです。19この世の生活でキ
リストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。
20しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。 21死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。 22つ
まり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生
かされることになるのです。

クリスチャンとして生きる決心をする上で、あるいは決心をした後でも、「復活」という出来事をどう理解すればよいか…と悩む方は、少なからずいらっしゃると思います。聖書には人智を超えた奇跡が他にもたくさん書かれていますが、たとえ他の全ては信じられても復活だけは…ということすら、有り得るかもしれません。

それぞれの受け止め方がどのようなものであっても、私たちの唯一の信仰の規範である聖書が、はっきりとイエスさまの復活を告げていることは共に心に留めたいと願います。その上で、復活に限りませんが、「分からないこと」は「分からないまま」にしておくことも大切かもしれません。無理に分かろうとして、自分の常識や感覚の中に収まるように聖書を捻じ曲げてしまうくらいなら、「いつか分かる日が与えられるだろう」と、気楽に祈りつつ待つ方がよいと思うのです。

さて、そうは言っても今日の箇所ではパウロがこれだけ情熱的に、復活について解き明かしています。せっかくですから、神さまがパウロを通して何を語ってくださっているのか、共に考えていきたいと思います。

復活について、私自身は「神さまにできないことはない」ので、「死者を復活させることもできる」とシンプルに捉えてきました。私にとって復活を疑うことは、神さまの全能性を疑うことになってしまうので、信仰そのものが成り立たなくなってしまうのです。

しかし今日の箇所を読むと、私は復活についてどうにか理解・納得するためにそうした考え方をしてきたのかな…？と小さな不安を感じました。パウロの言葉から、理解や納得を求める前にまず知るべきことがあるよ、と教えられた気がしたからです。

復活を信じることが難しく感じられるのは、それほどに「死」が絶対的に不可逆なものとみなされているからだと思います。たとえば年齢を重ねてからでも、心身の若さや健康をある程度取り戻すことはできるので、「老い」は絶対的に不可逆とまでは言えません。しかし「死」を迎えて肉体が滅びれば、そこから戻ることはできないので、地上における完全な「終わり」と認識されるのです。

イエスさまも、十字架の上で息を引き取られ、埋葬され、一度はその「終わり」を迎えられました。しかし考えてみれば、イエスさまを通して神さまの権威を、それこそ全能であることを現すのであれば、十字架にかかろうが何をされようが「死なない」という姿を見せることも出来たと思うのです。その方がより神秘的で、当時の敵対者たちを屈服させられたかもしれません。
しかし神さまの思いはそこにはありませんでした。人としてこの世に遣わされたイエスさまが、人と同じように終わりを迎え、そこから復活される。死に勝利する。絶対的な終わりだと思われていたものが、神の目にはそうではないことを知る。ここに大切な意味があるのです。

神さまがイエスさまを遣わされたのは、単にご自身の権威を示すためではなく、人々を罪に捕らわれた人生から、神と共に生きる新たな人生へと導くためでした。もし本当にイエスさまの歩みが、十字架という時の権力による処刑で完全に終わっていたら、きっと人々はそこに希望を見出すことはできなかったでしょう。永遠の赦しを告げ知らせる、十字架での贖いの死と、新たな命に生きる復活が合わさってこそ、神さまからの愛と希望に満ちたメッセージは完成するのです。だからこそパウロは、復活が無ければ自分たちの宣教も、あなたがたの信仰も、無駄であり虚しいと語ったのです。

イエスさまは初穂（最初の捧げもの）となって、私たちに限りない神さまの愛を教えてくださいました。様々なことを自分の頭で考え、納得したくなる私たちですが、まずは主の前に心を空っぽにして、ただ真っすぐに神さまの愛を受け止めていきたいと願います。そうすれば必ず、神さまが私たちを在るべき姿へと作り変えてくださる、と信じています。

**～分かち合い～**

- **それぞれの「復活」に対する受け止め方を、パウロが語るような「もし復活がなかったとすれば」という切り口から考え、語り合いましょう。**

## 今週の聖書日課

### ５月２７日（月）ヨハネによる福音書　１１章２５節

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。

常盤台バプテスト教会墓地の墓石に刻まれているみ言葉です。身体は死んでも霊は別の世界で生き続けます。先に行っている父、母、妻とも会えます。イエスさまを信じる者には、いつまでも愛と希望が与えられます。ありがとうございます。

### ５月２８日（火）ローマの信徒への手紙　１２章１－２節

1こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。
2あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

「あなたがたはこの世に倣ってはいけません。何が神に喜ばれる事であるか、わきまえなさい」この世の人々(私も含めて)は、表面的には理性を装っていますが、裏では損得と欲で暮らしています。だから苦しみがあります。悲しみがあります。イエスさまは愛を教えて下さいました。そこには平和と喜びがあります。イエスさまにわが身を献げて、信じ、従ってまいりましょう。

### ５月２９日（水）マタイによる福音書　１８章１５－１７節

15「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。 16聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。 17それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。

人は自分が間違っていないと思い込むとほかの人の声もなかなか聞きいれません。素直な気持ちでその人のことを思って、神さまにお祈りをしましょう。

### ５月３０日（木）ダニエル書　３章８－２５節

8さてこのとき、何人かのカルデア人がユダヤ人を中傷しようと進み出て、 9ネブカドネツァル王にこう言った。
「王様がとこしえまでも生き永らえられますように。 10御命令によりますと、角笛、横笛、六絃琴、竪琴、十三絃琴、風琴などあらゆる楽器の音楽が聞こえたなら、だれでも金の像にひれ伏して拝め、ということでした。 11そうしなければ、燃え盛る炉に投げ込まれるはずです。 12バビロン州には、その行政をお任せになっているユダヤ人シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人がおりますが、この人々は御命令を無視して、王様の神に仕えず、お建てになった金の像を拝もうとしません。」
13これを聞いたネブカドネツァル王は怒りに燃え、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴを連れて来るよう命じ、この三人は王の前に引き出された。 14王は彼らに言った。
「シャドラク、メシャク、アベド・ネゴ、お前たちがわたしの神に仕えず、わたしの建てた金の像を拝まないというのは本当か。 15今、角笛、横笛、六絃琴、竪琴、十三絃琴、風琴などあらゆる楽器の音楽が聞こえると同時にひれ伏し、わたしの建てた金の像を拝むつもりでいるなら、それでよい。もしも拝まないなら、直ちに燃え盛る炉に投げ込ませる。お前たちをわたしの手から救い出す神があろうか。」

16シャドラク、メシャク、アベド・ネゴはネブカドネツァル王に答えた。
「このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。 17わたしたちのお仕えする神
は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってください
ます。 18そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建
てになった金の像を拝むことも、決していたしません。」
19ネブカドネツァル王はシャドラク、メシャク、アベド・ネゴに対して血相を変えて怒り、炉
をいつもの七倍も熱く燃やすように命じた。 20そして兵士の中でも特に強い者に命じて、シ
ャドラク、メシャク、アベド・ネゴを縛り上げ、燃え盛る炉に投げ込ませた。 21彼らは上
着、下着、帽子、その他の衣服を着けたまま縛られ、燃え盛る炉に投げ込まれた。 22王の命
令は厳しく、炉は激しく燃え上がっていたので、噴き出る炎はシャドラク、メシャク、アベ
ド・ネゴを引いて行った男たちをさえ焼き殺した。 23シャドラク、メシャク、アベド・ネゴ
の三人は縛られたまま燃え盛る炉の中に落ち込んで行った。
24間もなく王は驚きの色を見せ、急に立ち上がり、側近たちに尋ねた。
「あの三人の男は、縛ったまま炉に投げ込んだはずではなかったか。」
彼らは答えた。
「王様、そのとおりでございます。」
25王は言った。
「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けて
いない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」

三人は信じる神さまのことを述べました。「神は燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救って下さいます」三人は炉に投げ込まれたが、火は身体に近づかなかった。神さまは答えて下さいました。わたしたちの神さまは、私をあなたを愛してくださっています。心を込めてお祈りをしましょう、神さまは信じるあなたを、必ず救ってくださいます。

## ５月３１日（金）ヨハネによる福音書　１６章３３節

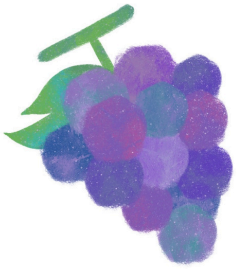
これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがた
には世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

「わたしは既に世に勝っている。勇気を出しなさい」昔「最後に愛が勝つ」そんな歌がありましたが、その通りだと思います。愛にまさるものはありません。神さまは愛です。神さま、イエスさま、ありがとうございます。

## ６月１日（土）ヘブライ人への手紙　４章１４－１６節

14さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられ
ているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかり保とうではありません
か。 15この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかった
が、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。 16だから、憐れみを
受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこう
ではありませんか。

「偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのです」なんと心強いみ言葉でしょう。そのイエスさまが私と共にいてくださいます。私のことを思い、一緒に泣いて、一緒に喜んでくださいます。そして導いてくださいます。イエスさま、いつもありがとうございます。



2024.5　成人科